

## 編 集 後 記

第1編はトピックスとして、敗血症の病態を著者の専門領域である免疫学、炎症学の最新の知見に基づいて解説して頂いた。この領域は日進月歩であり、これまで不明な病態が急速に説明可能となったこと、さらに敗血症は急性病態でなく、長期に渡って免疫障害が持続する病態であることを示された。今回は病態の解説が主体であり、今後、治療編の解説論文を投稿頂くことを期待したい。第2編の総説は高齢者の各種複合病態の薬物療法に漢方医学の役割について具体的、系統的に解説して頂いた。漢方医学的診察は患者を「心身一如」と捉え、病名診断でなく、患者を全人的に評価(証の決定)して漢方製剤(方剤)を決める随証治療であり、いわゆる病名処方ではないことが重要である。「心身一如」は漢方医学のみならず、高齢者の通常の診療において重要なことも教えて頂いた。高齢社会を迎え、歯科・医科連携が重要視され、保険診療でも一定の診療報酬が認められるようになった。そこで第3編は解説として、これまでほとんど投稿のなかった歯科医師から、歯科・産科(小児科)連携の重要性を解説して頂いた。歯科的トラブルが妊婦のみならず、新生児への影響のあることを示された。まさに高齢者以外にも医科・歯科連携の必要性を示された。

今回は、3編の論文での発刊となったが、いずれも極めて臨床医にとって重要な問題についてコンパクトにおまとめ頂き、すべての編集委員が査読に時間を忘れて没頭し、査読後に充実感があつたとの感想であった。

「明日の臨床」が二次資料として利用される申請がこれまで何回もあり、企業等が必要な内容を医中誌などの文献検索でヒットして利用されている。この雑誌の社会・国民への情報発信に少なからず寄与していることを示しており、編集委員として嬉しい状況である。

(松本美富士記)

---

### 編 集 委 員 (50音順 \*印委員長)

池 山 淳\* 粥 川 裕 平 杉 藤 徹 志 高 橋 英 世  
平 井 長 年 松 本 美 富 士 三 浦 義 孝

---

明日の臨床

Vol. 32 No. 2

2020年11月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎(052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

---

頒 価 1,000円・発行部数 7,000部